鳥羽・竹田

Toba - Takeda

◆遷都のような大事業

白河天皇が院政の拠点として応徳３年(1086)に造営した鳥羽離宮(鳥羽殿)は、東西約1.7キロ、南北約1.1キロに及び、その北東端が竹田駅の南付近に当ります。広大な池や築山を擁した風光明媚な鳥羽離宮は、南殿・北殿・馬場殿・泉殿・東殿・田中殿などの御所に加えて、御堂、諸施設、貴族の邸宅、人々の住居が建ち並び、「都遷りの如し」と言われました。

◆貴族の世から武士の世へ

上皇や貴族は船遊びや和歌の会を催し、上皇に仕えた北面の武士は城南宮の祭礼で流鏑馬を披露し喝采を浴びました。特に後鳥羽上皇は、藤原定家らと歌会を催すばかりか武芸もたしなみました。承久3年(1221)、倒幕の意志を固めた後鳥羽上皇は、鳥羽離宮で行われる城南流鏑馬にことよせて武士を集め、北条義時追討の兵を挙げます。鎌倉幕府はこの承久の乱に勝利、その力がいよいよ強固になります。

◆東殿・泉殿の御陵と寺院

東殿や泉殿の地には、白河天皇、孫の鳥羽天皇、曾孫の近衛天皇の御陵があります。中でも近衛天皇陵の多宝塔は、歴代の天皇陵に現存する唯一の塔で、慶長11年(1606)に豊臣秀頼の命で再建されました。鳥羽上皇が建立した安楽寿院や北向山不動院は当時の仏像を伝え、北面の武士として平清盛らと共に鳥羽上皇に仕えた佐藤義清(後の西行法師)ゆかりの西行寺跡や、弘安10年(1287)の銘を持つ石造五輪塔(重文)があります。

◆馬場殿から南殿へ

鎮守の神と崇められ、馬場が設けられた城南宮は今なお緑をたたえ、鳥羽殿を詠んだ与謝野晶子の歌碑もあります。馬場殿と南殿の間には池が広がり、上皇や貴族は船遊びを楽しみました。最初に御殿が建てられた南殿の地は鳥羽離宮跡公園になっています。中の小山を秋の山と言い、『平家物語』にも登場します。

◆一寸法師、上陸の地

鳥羽離宮跡公園の西側の道路は、昔の鳥羽の作り道に重なり、平安時代の道幅は27メートル程、平安京の入口の羅城門と鳥羽の津を結んだ直線道路です。鳥羽の津は、嵯峨や宇治や大坂、また奈良に近い木津と川で繋がり、都に入る人と物資が集まる交通・流通の要でした。江戸時代の御伽草子に、都を目指した一寸法師は、鳥羽の津でお椀の船を下りたとあります。鳥羽の作り道は、上皇や貴族が牛車で行き来し、天下を狙う武士が馬を馳せ、日本を訪れた外交使節が通った歴史の道で、鳥羽街道とも呼ばれます。

◆鳥羽街道を行く

この道を南に行くと、北面の武士であった遠藤盛遠(後の文覚上人)に命をなげうち貞節を守ったと『平家物語』に語られる袈裟御前ゆかりの恋塚寺や造り酒屋があり、所々に昔の街道の風情が残っています。また江戸時代に二条城の石垣の補修に使うべく瀬戸内の石切場から運ばれたとされる鳥羽の大石が鴨川の河川敷にあり、下流を望めば男山や天王山が見えます。ここから大阪府との境までは7キロ余り、鳥羽街道は、淀、八幡を経て淀川沿いに大阪へ続きます。

鳥羽離宮のゆかりを訪ねて

Toba Imperial Villa Route

スタート [START] 地下鉄・近鉄 竹田駅 (Subway/Kintetsu) Takeda Sta.
(京阪電車丹波橋駅より近鉄京都線約3分、JR京都駅より地下鉄烏丸線/近鉄京都線約6分)

基本コースのみ／約6.5km、約1時間35分
健脚コースとも／約8.9km、約2時間15分
(河川敷にある鳥羽の大石まで足を延ばします)

ゴール [GOAL] 地下鉄・近鉄 竹田駅 (Subway/Kintetsu) Takeda Sta.

城南宮社殿と随神像

近衛天皇陵

鳥羽伏見の戦いの当時、小枝橋はここに架かっていた

鳥羽伏見の戦い勃発の地 Starting Point of the Battle of Toba-Fushimi

鳥羽伏見の戦いの前に、「通せ」「通さぬ」の談判があった赤池

橋の下をくぐってから堤防の上の道路に上がります